

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年3月31日（水）

2 確認箇所

固体廃棄物貯蔵庫第1棟、第2棟

3 確認項目

- (1) 物揚場排水路簡易放射線検知器指示値上昇事象の対応状況
- (2) 固体廃棄物貯蔵庫第1棟、第2棟の状況

4 確認結果の概要

- (1) 物揚場排水路簡易放射線検知器指示値上昇事象の対応状況について

本日（3月31日）2時30分頃、降雨の影響により物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下、「P S Fモニタ」という。）の指示値が、「高警報」設定値の1,500Bq/Lに対して、一時的に750Bq/Lを超える事象が発生したことから、新事務本館等において原因調査等の対応状況について情報を収集した。

- ・新事務本館において物揚場排水路のP S Fモニタ及び弁別型P S Fモニタの指示値の推移を確認したところ、P S Fモニタの放射能濃度（ガンマ線核種＋ベータ線核種）が降雨に伴って上昇し、2時30分頃に最大値約800Bq/Lを示した後に下降し、4時過ぎには平常時のレベルに低下しており、モニタ指示値確認時（午前9時24分）は約70Bq/Lを示していた。一方、弁別型P S Fモニタの指示値は、ガンマ線核種＋ベータ線核種の放射能濃度にP S Fモニタと同様な一時的な上昇が見られたものの、ベータ線核種の放射能濃度に上昇は見られなかった。
- ・東京電力では、P S Fモニタ指示値が上昇した原因は、指示値の上昇が一時的でありサンプリング試料の分析結果でも全ベータ放射能濃度が低いことから、空気中の天然核種（ラドン等）が降雨に伴い地表面に降下し排水路に移行したものと推定している。

- (2) 固体廃棄物貯蔵庫第1棟、第2棟の状況について

3月2日に物揚場排水路のP S Fモニタにおいて「高警報」が発生した原因調査の中で、3月22日に瓦礫等一時保管エリアW2で放射線率が高いゲル状物質が確認された（3月23日、3月26日、3月29日現地確認）。当該一時保管エリアに保管されていたコンテナは固体廃棄物貯蔵庫第2棟に搬入されていることから固体廃棄物貯蔵庫第2棟の現況を確認するとともに隣接する固体廃棄物貯蔵庫第1棟の現況を確認した。

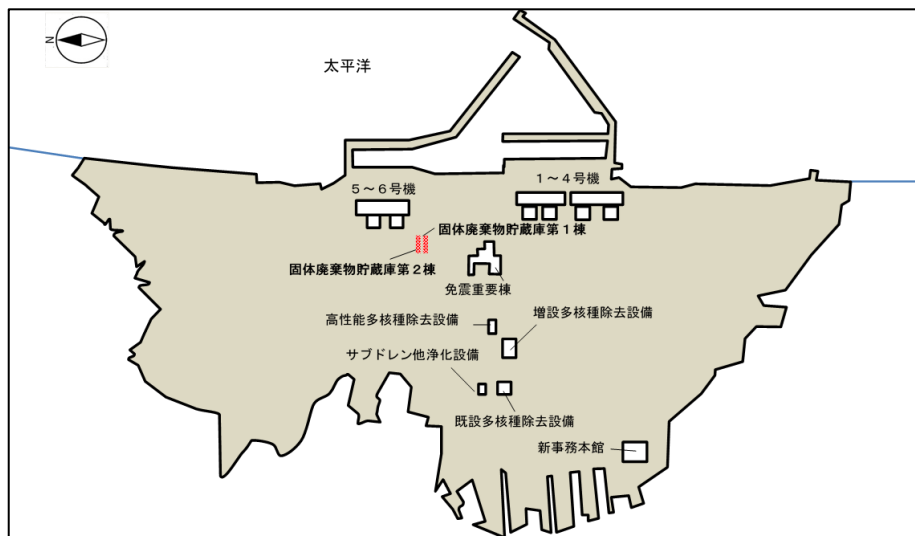
（図1、写真1）（前回確認：令和2年9月17日）

< 固体廃棄物貯蔵庫第2棟の状況 >

- ・ 前回確認時には廃棄物が保管されていなかったが、数種類のコンテナ約360基が平置き及び二段～三段積みで保管されていた。(写真2)
- ・ 3月2日に瓦礫等一時保管エリアW2から移動した際に腐食が確認されたコンテナ1基を含む大型コンテナ(約3.8m×2.3m×高さ1.6m)8基はシート上に平置きで保管されていた。(写真3)
- ・ 移動した際に腐食が確認されたコンテナの側面の下部はパテで補修した箇所があったが、内容物の漏れは確認されなかった。(写真4)
- ・ 他のコンテナでは一部表面が腐食しているものがあったが、確認した範囲ではコンテナの破損や内容物の漏れは認められなかった。(写真5)
- ・ 東京電力によると、今後、準備が整い次第コンテナ内容物の確認を行っていくとのことであった。

< 固体廃棄物貯蔵庫第1棟の状況 >

- ・ 前回確認時と状況は変わっておらず、大型機器類の廃棄物が保管されていた。(写真6)



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
固体廃棄物貯蔵庫第1棟、第2棟の
外観（南西側から撮影）



(写真1-2)
固体廃棄物貯蔵庫第2棟入口
（西側から撮影）



(写真1-3)
固体廃棄物貯蔵庫第1棟入口
（西側から撮影）



(写真2-1)
固体廃棄物貯蔵庫第2棟内北側の状
況（入口（西）側から撮影）



(写真 2 - 2)
固体廃棄物貯蔵庫第 2 棟内南側の状
況 (入口 (西) 側から撮影)



(写真 3)
大型コンテナの保管状況①
(南西側から撮影)



(写真 4 - 1)
パテで補修したコンテナの状況



(写真 4 - 2)
パテ補修箇所の状況



(写真 5)
大型コンテナの保管状況②
(南側から撮影)



(写真6)
固体廃棄物貯蔵庫第1棟の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。